

## 陳 述 書

2023年5月31日

福岡高等裁判所 御中

住所 福岡県福岡市

氏名 荒木 龍昇

私は福岡市議会議員を5期20年努めました。

東日本大震災が起こった直後の2011年5月に2度福島県と宮城県を調査に行きました。現地は津波による甚大な被害があり、街や田畑の至る所で自動車や小型漁船が打ち上げられ、撤去中の瓦礫が積まれていました。津波の被害は大変なものでしたが、原発事故による放射性物質の汚染の問題はより深刻でした。郡山市の避難所ビッグバレットで出会った富岡町の被災者は、11日地震直後は近くの避難所に避難したが、2、3日で自宅に戻れると思っていた、ところが12日に突然10km圏内の住民は避難するように避難指示があり、着の身着のまま川内町に避難し、その後郡山市ビッグバレットに避難したと言っていました。

震災後、瓦礫処理の問題が大きな問題となり、政府は全国で震災瓦礫処理の受入を検討していました。問題は原発事故による放射性物質による汚染にあり、受け入れる自治体がなかなか見つからない状況でした。一部自治体の受入がありましたが、最終的には現地で焼却処分となりました。事故当時東北や関東地方の自治体では飲料水の汚染や焼却灰での高濃度の汚染があり、今日まで汚染された焼却灰や下水道汚泥の処理に苦慮していることが報道されています。

私は2011年6月議会で、汚染された瓦礫受入問題について質問を行いました。福岡市は焼却場でセシウムなど放射性物質の処理ができないことから、閉鎖水域である博多湾内にホットスポットができ、海水淡水化施設や漁業に被害が出る恐れがあることを理由に汚染された瓦礫は受け入れしないとしました。

また、私は議会で玄海原発と福岡市の地理的關係は福島県飯舘村と極めて似ていることから、玄海原発の廃炉を求めるとともに原子力災害の対策について質問をしてきました。福岡市は2013年に国が暫定的に決めた「緊急防護措置を準備する区域 (UPZ)」50km 圏内の40才未満の市民1回服用分の安定ヨウ素剤を備蓄することにしました。その後も議会で不十分な対策について同僚の森議員が質問を継続し、現在は50キロ圏内の全ての住民が1回服用できる量を公民館等に分散備蓄するようになりました。

その後 2016 年 7 月に福島の実地の調査に行きました。現地の市町村では除染した汚染土のフレコンバックが至るところで山積みとなっていました。また飯舘村に汚染土壌を減容のために焼却する施設の視察に行き、飯舘村役場を訪問しました。対応した職員の話では原発事故当時の状況について、地震の被害についてはいずれ復興できると考えていたが、4 月 22 日に国から突然全村退避の指示があり、避難誘導およびその後も大変だったと語っています。訪問した当時飯舘村の状況はようやく村の庁舎が再建され、商業施設としてコンビニエンスストアが 1 軒と高齢者施設、小学校が整備された状況でした。当時村に戻ってきている住民の多くは高齢者でしたが、避難指示解除後も子育て世代はあまり戻っていないと報道されています。

いまま福島原発事故の非常事態宣言は解除されず原発の廃炉処理のめどは立っていません。汚染水処理問題や除染した土壌の処理のめどもたっていないこと、帰還困難区域指定を解除されても年間 20 ミリシーベルト以下という高いレベルでの影響を懸念する子育て世代が戻っていません。福岡市は玄海原発から最も近いところで 37 キロ、最も遠いところで約 60 キロです。もし玄海原発が過酷事故を起こせば私たちの日常生活はたちまち奪われます。私たちは原発を望んでいないし、原発がなくても電気は足りている状況で、原発を稼働することで事業者は利益を得ても、私たちは一方的にリスクを負わされることは極めて理不尽だと憤りを持っています。

地方自治の本旨は住民の福祉を増進することであり、議員として福岡市が原発の廃炉を国や事業者に求めるよう働きかけてきました。

この理不尽な状況を是正すべく、原発廃炉の判断をされることを求めます。